

第1学年 国語科学習指導案

時程：A 時程 13：00～14：45

場所：1年1組教室

対象：1年1組 35名

指導者：吉永 安里

1. 単元名：『1年1組 絵本の森へようこそ』

共通教材：「ずうっと、ずっと、大すきだよ」（ハンス・ウィルヘルム作・絵／光村図書1年下）

2. 単元の目標

- 自分や友だちの好きな絵本を楽しんで読んだり、好きな絵本を友だちと積極的に紹介し合ったりすることができる。（関心・意欲・態度）
- 登場人物やあらすじを押さえたり、その絵本の好きなところを考えたりしながら読むことができる。（読むこと）
- 自分の好きな絵本の登場人物、あらすじ、好きなところなどを紹介したり、友だちの好きな本を読んで感想を述べたりする。（話す・聞く）

3. 単元設定の理由

5月に初めて学校図書館を利用した際、図書館司書教諭が読み聞かせしてくれた絵本が「もりのなか」（マリー・ホール・エッツ）であった。読み聞かせの後、「みんなで本の森を探検しよう！」と、学校図書館を本の森になぞらえクラスの子どもたちと絵本の登場人物になりきって、図書館の探検ごっこを楽しんだ。そして、図書館の絵本のコーナーを「絵本の森」と命名し、1年生の間はそこから必ず一冊は絵本を借りることとした。これが、本単元の立ち上げのきっかけとなっている。

学級での読書の実態としては、1学期には個人差が大きく、放っておくと休み時間にも友だちと関わらずに本ばかり読んでいるというほど本好きな子もいる反面、苦手意識から、声をかけないと自分からはなかなか本を手にとらない子もいた。そのような実態を受け、5月から週に最低1冊の読書を推奨してきて、少しずつ読書への抵抗をなくしてきた。11月の読書月間には、学級でも『読書貯金』のファイルを作って、みんなで読んだ本を貯金しよう！と投げかけ、これをきっかけに読書量が飛躍的に多くなった。1ヶ月で、少ない子でも10冊、中には100冊前後読んだ子もいた。しかし多読には意欲的だった一方、自分の読んだ本への愛着や、本と自分との関わりの意識は、まだまだ希薄なように思われた。真に読書好きになるためには、単に本をたくさん読むだけではなく、「この本おもしろい。」という本への関心や、「この本が好き！」という本への愛着が不可欠だと考え、本単元を設定した。自分の好きな絵本を選び、その本をクラスの友だちに紹介しようとする中で、その絵本はどんなお話なのか、また自分はどのようにして好きなのか、本と、本を通して見えてくる「自分」と向き合わざるを得ない学習活動を組み込み、本と自分との関わりを子どもたちなりに意識できるようになってほしいと願っている。

また、本を介した友だちとの関わりという点からみると、本学級の子どもたちは友だちへの関心が強い子が多く、誰かが本を紹介するとその本がちょっとしたブームになったり、友だちの読んでいる本に興味を示して「次、その本貸して。」と声を掛け合ったりする姿がよく見られる。このような実態を踏まえ、学校図書館の「絵本の森」にあるたくさんの絵本の中から「自分」の好きな絵本を見つけ出し、その絵本をみんなで持ち寄って「1年1組絵本の森」を再構成することで、友だちの好きな本の傾向などを知り、今まで以上に友だちの読む本や友だちに関心を高めてほしいと願っている。読書好きな子どもを育てるには、読書が共通の文化となっている学級風土を醸成することが何よりも大切である。読書は一人でするものではあるが、本についての話題が飛び交う学級の中にいれば、子どもたちは自然に本を読み始めるものである。本単元が、このような読書好きの子どもを育くみ合う学級風土を醸成することにつながっていくことも期待している。

4. 研究テーマとの関連

(1) 『自分』を物語る学習過程

『自分』の好きを意識して、毎回の読みの時間には、共通教材についての読み合いだけではなく、

「自分」の本と向き合う時間を設定する。また、そこで自分が考えたことをすぐ言葉にしてまとめられるように紹介ワークシートを用い、毎時間蓄積していき、自分の学びの振り返りをしやすくする。

(2) 「子ども一人一人への願いに基づく手立てと評価」

子ども一人一人が「自分」を物語りながら学習を進めていくために、子ども一人一人の思いや育ちを生活やそれまでの学習での姿から見取り、その見取りを基盤に一人一人への願いを設定し、その願いに基づく支援を行う。また、ワークシートへの記述と教師の一人一人への願いを照らし合わせながら、本時の学びの評価をする。

5. 学習指導計画 (全9時間)

生活で：日常から読書貯金でいろいろな本をたくさん読んだり、図書館との関わりをもつ活動を行ったりして、本への関心を高める。

第1次：読書貯金の中から特に自分の好きな本を見つける。・・・ 1時間

第2次：共通教材を読みながら、自分の好きな本の紹介の仕方を考える。・・・ 4時間

(本時4 / 4時間)

第3次：紹介する本の分類をしたり、絵本の森の地図をつくったりする。・・・ 2時間

第4次：1年1組絵本の森で、友だちと自分の好きな本を紹介し合う。・・・ 2時間

生活へ：日常的に友だちと本を紹介し合ったり、本の好きなところを見つけながら読んだりする。

6. 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

自分の好きな絵本の、好きなところ(キラキラポイント)やそのわけを考えながら読み、友だちと好きな本を交流し合う。

(2) 本時の展開

主な学習活動 (・予想される児童の反応)	○留意点 ☆テーマとの関連 ※評価
1. これまでの学習を振り返る。	○これまで、絵本の魅力を人物やできごとに着目して考えてきたことを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> キラキラポイントとキラキラのわけをかんがえよう！ </div>	
2. キラキラポイントとそのわけを考える。 ①共通教材『ずうっと、ずっと、大すきだよ』を核に、キラキラポイントとそのわけの述べ方を考える。 ②自分の好きな絵本のキラキラポイントを読み取り、そのわけを考える。 ・幼稚園の時先生が読んでくれて、その時「○○」の部分がとても心に残ったから。 ・このお話の主人公はとても頑張っていて、自分も同じように頑張りたいな、と思ったからこの絵本が好きなんだよ。	○学級全体で共通の絵本を用いて、キラキラのわけを、人物やできごとのよさに加えて、自分の経験や自分らしさなどと結び付けて考えられるようにする。 ○共通教材でのキラキラポイントやそのわけの述べ方をもとに、自分と自分の好きな絵本の関わりについて、再考できるようにする。 ☆「自分」がその絵本にひかれるわけを考えられるような全体で押さえと個別の支援 ※キラキラポイントを見つけ、そこが好きなわけを、人物やできごと、また自分の経験や自分らしさなどと結び付けて書くことができる。(ワークシート)
3. キラキラポイントとそのわけを交流する。 ・わたしも、□□のところがいいなとおもいました。☆☆ちゃんのキラキラのわけが「なるほど」とおもったよ。	○絵本の森の活動ですぐ使えるように、紹介ワークシートに直接書き込めるようにする。 ☆本と向き合った履歴が見えるワークシート ○ペアの友だちとキラキラポイントやそのわけを述べ合ったり、コメントカードを交換したりすることで、感じ方の違いや共通点、自分らしさに気づけるようにする。(ペアトーク・付箋紙) ※友だちの絵本やその絵本と友だちの関わりについて感じたことを書いているか。(付箋紙)